

2016'合格体験記

埼大(教養)高経大(経)明大(法)理大(経) 現役合格 菅谷圭洋 (中央小→鴻巣中→埼玉栄)

初めに、第一志望の東大に合格できなかったことを心からお詫び申し上げます。とはいえ、こんな僕が東大に挑戦でき、他大学を合格できたのも東大ゼミのおかげだと思っております。私のした失敗や辛い経験を後輩の皆さんにはしてもらいたくないので、二つだけアドバイスさせて下さい。

一つ目は、出来るだけ早く将来の目標を決め、志望校の過去問を始め、繰り返し解くことです。なぜなら、高三の秋や冬からでは間に合わないし、僕自身も東大の世界史を後回しにし完成しないままになってしまったからです。勿論、東大の国語は高一の冬、日本史は高二の冬、英語は高三の春からで、三回ほど繰り返しましたが、それでも不十分でした。数学は高三の夏からだったので尚更ピンチでした。過去問を解くうえで大切なのは、解答をすぐ見るのではなく、「直し」をすることです。東大ゼミでは、一回目は青ペンで何も見ず自分の頭だけで再び考え、二回目に緑ペンで教科書や参考書から関連箇所を調べて再度取り組むという最強のメソッドを採用しています。これを実践することで自分の不注意さや弱点や苦手な分野がはっきりとわかる上に、解答とした根拠も明確となり、今後の対策を考えることにつながり、質の高い勉強が行えるのです。現実には、初めのうちはなかなか点が取れず、やる気も失われがちですが「絶対に合格してやるんだ」と強い信念を持ち最後まで諦めないでやりぬいて下さい。試験時間は、実際の九割程度で行えば本番で時間が足りなくなることもなくなります。

二つ目は「自分で勉強する」ということです。先程の「直し」の重要さとかぶるかもしれませんが、自分が主体となって勉強することで確実にレベルアップできます。どんなに先生が為になることを言ってくれても、聞く耳をもたなければ成績は伸びません。東大ゼミでは英語の授業を通して勉強のやり方を教えてくれます。英文を一つ一つ分析する(SVOCMの五文型)のと同じように他の科目も、設問を一つ一つ分析吟味し問われていることを理解しその条件を満たす答えを選んだり論述したりすることは、学校の間中期末レベルの暗記に頼った勉強法では歯が立ちません。また、勉強は反復練習という継続的な努力を要しますが、特別な才能や能力は必要ないのです。そういう努力をするかしないかは自分次第であり、決して他人(学校や塾など)のせいにしてはいけないと思います。難関大学への道はこうした努力に加えて「考える癖」を身に着け、自分の頭で考える訓練が必要になってくるにすぎないのです。

三つ目は、「最後まであきらめない」ということです。僕はセンター試験で90%はおろか79%しかとることができず試験直後の二日間は食べ物も喉を通らず勉強にも身が入らず生きた心地がしませんでした。しかし、東大の足切が例年高くないことに気が付くと、水を得た魚のようにやる気がみなぎり、毎日塾に通い続けて、朝から晩まで過去問を解きまくりました。僕がこの時諦めずに済んだのは、高一の時から東大合格を目指して勉強してきたというプライドや反骨精神があったからだと自負しています。実際に、この追い込みにより世界史の点数も大きく飛躍しました。日々の積み重ねが自信につながるので、諦めない自分を今から造り上げて下さい。

最後に、東大ゼミの塩田先生は、生徒の実力を高めるために、本音で他人では言いにくいようなことまで言って

くれます。感謝の気持ちを持って真に受け止め「自分を変える努力」をすべきではないでしょうか。

来年こそ、東大文一に合格し、晴れ晴れと合格体験記を書けるよう、本当の力をつけられるよう、ストイックに勉強を続けていきたいと思います。塩田先生、今後とも御指導よろしくお願いします。